

台湾日語教育學會 J-GAP TAIWAN 第 31 回月例会活動

Can-do 実践研究国際シンポジウム

タイトル：「J-GAP のこれから—台湾、韓国と日本の発足・推進から今後を考える—」

発表募集のご案内

【経緯】

J-GAP TAIWAN は台湾の日本語教育における①中等教育から高等教育への縦の連携問題の改善；②各教育機関内の科目間、教員間の連携強化；③JF-standard の概念に基づく授業デザインの実施のために、2012 年から「勉強会」「ワークショップ」「実践研究発表」など様々な活動を行ってきました。実践研究発表会は各教師が現場での実践を中心に発表してきました。その成果は、台湾内部では注目されつつあります。詳しくは J-GAP 台湾のホームページをご参照ください。

(<http://jgap.tw/>) (<http://j-gap.wikispaces.com/%E5%8F%B0%E6%B9%BE>)

Can-do 概念を取り入れた授業の仕方を学ぶ活動は 2014 年 4 月からすでに 3 年目に突入し、過去の業績が蓄積され、それをもとに今回はさらに国際的に研究活動を行っていきたくと企画しました。

【今回のシンポジウムについて】

1. テーマ：「J-GAP のこれから—台湾、韓国と日本の発足・推進から今後を考える—」
2. 日時：2015 年 3 月 7 日（土）9：00～17：30
3. 会場：東呉大学 第一教研大楼 1F 普仁堂（台湾〒111 台北市士林区臨溪路 70 号）

【特色】

この度 2015 年 3 月 7 日台湾の東呉大学において行われる Can-do 実践研究国際シンポジウムは J-GAP の統括リーダーでカリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授をお招き、ご講演いただきます。また、同じメンバー国である韓国は台湾と同じような問題を抱えており、それらの問題を克服し、アーティキュレーション達成のために、釜山を推進モデル地域として、さまざまな活動がなされてきました。その活動の中心人物である釜山外語大学院長鄭起永教授を招き、韓国における J-GAP の発足・推進・今後という題で、講演していただきます。そして、日本の武蔵野大学と中国の天津外国語大学の J-GAP を担当される堀井恵子先生にもご講演いただき、日本と韓国の経験から今後台湾において、どのように J-GAP の活動を進めていけばいいか、広く意見交換をし、共に考えていけたらいいのではないだろうかと期待しています。

また韓国、日本、台湾の実践者のお話を相互に聞き、これまでに成果と困難点を確認した上、今後どう実践したらいいかと広く意見交換をしていきたい。それを踏まえ、今後の方向性がおのずから見えてくるのではないかと。

CEFR, JF スタンダード、Can-do に基づいた授業デザインやコースデザイン、聞く、話す、読む、書く、翻訳の 5 技能総合的な技能の育成の授業のデザインと実践案。または、A1、A2、B1、B2、C1、C2 の各レベル別のそれぞれの評価方法の研究など現場で活躍されている先生方からの積極的なご発表・ご参加の応募をお待ちしております。

【発表者募集】

発表内容：アーティキュレーション関係、CEFR、JF 日本語教育スタンダード、Can-do Statement を用いた教育実践研究など（例授業デザイン、コースデザイン、教材教案開発、教室活動、評価、ポートフォリオ開発など）

応募方法：日本語で A4 1 ページに以下の 1～5 の事項を記入し、メールの文書ファイル（Word）でお送りください。

1. 発表タイトル
2. 発表者氏名・ふりがな（共同発表の場合は全員）
3. 所属・職位（共同発表の場合は代表者のみ）
4. 連絡先住所、電話番号、メールアドレス（共同発表の場合は代表者のみ）
5. 発表内容の要旨；横書きで 34 字×34 行 500 字程度；キーワード五つ以内

発表時間：15 分間の口頭発表後、10 分間の質疑応答、意見交換

使用言語：日本語

発表申し込み締め切り：2015 年 1 月 31 日(土)正午 12 時

要旨の送り先：hclo@mail.mcu.edu.tw 羅曉勤まで

論文の締め切り：2015 年 2 月 22 日(月) (8 ページ以内 予稿集掲載)

問い合わせ：銘伝大学 羅曉勤 電話：0921-903-309 (hclo@mail.mcu.edu.tw)

或いは jgaptaiwan@gmail.com

主催機関：東呉大學日本語文學系・台灣日語教育學會 J-GAP TAIWAN

支援機関：國際交流基金・科技部

台灣日語教育學會 J-GAP TAIWAN 第 31 回月例会活動

Can-do 實踐研究國際研討會

主題：「J-GAP のこれから—台湾、韓国と日本の発足・推進から今後を考える—」

徵稿啟事

【緣起】

J-GAP TAIWAN 研究工作團隊以建立①高中高職與大學教師之間日語教學的銜接關係；②日語教學的課程之間、教師之間的連結；③實施 JF スタンダード、Can-do 教學方案對話的平台為宗旨，自 2012 年成立以來，舉辦過 26 次「讀書會」「講習會」「實踐研究發表會」等例會，而「實踐研究發表」匯集各個教師的教學方案，分享不同級別，與不同課程(聽、說、讀、寫、譯、文化理解)的教學設計與實施經驗。所累積的成果，在台灣日漸受到矚目。詳見(<http://jgap.tw/>)或(<http://j-gap.wikispaces.com/%E5%8F%B0%E6%B9%BE>)

集聚國內日語教學教師加入本團隊，學習 Can-do 的教學方案，2014 年 4 月已進入第三年，延續過去蓄積的能量，將擴大舉行國際研討會。

【本次研討會】

1. 主題：「J-GAP のこれから—台湾、韓国と日本の発足・推進から今後を考える—」
2. 日期：2015 年 3 月 7 日(星期六)9:00~17:30
3. 地點：東吳大學 外雙溪校區 第一教研大樓 1 樓 普仁堂 (台灣台北市士林區臨溪路 70 號)

【特色】

本次 2015 年 3 月 7 日於台北東吳大學舉辦的 Can-do 國際實踐研究研討會，邀請了 J-GAP 總主持人，美國南加大聖地牙哥校當作靖彥教授，J-GAP 的韓國代表，釜山外語大學院長鄭起永教授，以及擔綱日本武蔵野大學與中國天津大學的 J-GAP 執行人堀井恵子教授進行演講，分享他國的執行經驗，廣泛交換意見。

因此，期待包括韓國、台灣的 J-GAP 國際成員踴躍投稿，前來發表，促成建立「連貫學習的教學制度」，以及擴大國際交流的機會。

各位先進實施 Can-do 教學方案，或相關的課程設計，聽、說、讀、寫、譯或綜合能力指導的授課實踐方案，或是 A1、A2、B1、B2、C1、C2 各種級別，各類評價法的研究等，竭誠徵求各層級教師們踴躍報名參加發表，與我們共同分享您的經驗，透過各國的 J-GAP 實踐發表，增進國內外日語教師們的交流與成長。

【徵稿】

內容：學習銜接相關制度 CEFR、JF 日本語教育スタンダード、Can-do Statement 的教學實踐研究等
(例如：課程設計、教材教法研發、教室活動、評量研究、學習檔案規劃等)

投稿方法：含以下 5 項的日文文稿，A4 一頁橫寫 34 字×34 行，關鍵詞 5 個以內的摘要，以電子信件寄送

1. 題目
2. 姓名（共同發表者請全部列出）
3. 所屬・職稱（共同發表只寫代表人）
4. 住址、電話、電子信件住址（共同發表只寫代表人）
5. 摘要請橫寫繕打 34 字×34 行 500 字左右；關鍵詞 5 個以內

發表時間：發表 15 分鐘後討論 10 分鐘

使用語言：日文

摘要截稿：2015 年 1 月 31 日(星期六)中午前

寄送址：hclo@mail.mcu.edu.tw 羅曉勤

論文截稿：2015 年 2 月 22 日(星期日)(8 頁以內 刊於會議論文集)

聯絡：銘傳大學羅曉勤老師處 hclo@mail.mcu.edu.tw 電話：0921-903-309
或 jgaptaiwan@gmail.com

主辦單位：台灣日語教育學會 J-GAP TAIWAN · 東吳大學日本語文學系

協辦單位：國際交流基金·科技部